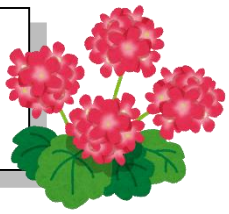
～緑陽生および保護者の方へ～

緑陽進路だより



２０１９．９．２５
第３号
緑陽高校進路指導部

【大学入試改革　特集号】

今回は、かねてより質問の多かった、来年度からの大学入試改革について特集します。
おもに「大学入学共通テスト」についての内容になります。
大学入試全般に関わる重大な内容ですので、進学希望者およびその保護者様は、ぜひご一読頂ければ幸いです。

●大学入学共通テストとは…

「大学入試センター試験」(National Center Test for University Admissions)に代わって、2021年1月から行われる予定の、日本の大学の共通入学試験です。 予定通り実施されれば、現在の高校2年生が、大学入学共通テストの最初の受験生になります。

※大学入試センター試験…

独立行政法人大学入試センターによって、例年 1 月 13 日以降の最初の土曜日・日曜日の 2 日間にわたって現在行われている、日本の大学の共通入学試験。国公立大学の一般入試や、多くの私立大学の一般入試で用いられている。

高等学校の学習指導要領に沿って出題されるマークシート式の設問を回答する形式。科目は6教科30科目の中から、指定されたものを受験する。合格ラインは大学のレベルによるが、最低でも6割（平均点）以上の得点を得ることで合格の可能性が出てくる。

●大学入学共通テストの特徴

【従来のセンター試験と変わらない点】

① 実施する時期
② 教科・科目数
③ 申し込み方法・回答方式（ただし、一部変更あり）

【従来のセンター試験から変わる点】

① 民間試験を利用して英語の「4技能試験」を実施するようになる！

センター試験の英語問題は「リーディング」「リスニング」の 2 技能からの出題でしたが、新しい大学入試共通テストでは「リーディング（読解力）」「リスニング（聞く力）」に加え、「スピーキング（話す力）」「ライティング（作文）」の4技能を試験するようになります。

更に「スピーキング」「ライティング」に関しては、委託された民間企業の試験を受ける「英語成績提供システム」の導入が予定されています。

詳しくは後述の「英語成績提供システムについて」を、ご覧ください。

② 国語（現代文）と数学で、記述式の問題が出題される！

センター試験と同じく、大学入試共通テストも、ほとんどの問題はマーク式になります。しかし、単純な択一ではなく、適切なものをすべて選ばせるといった、知識の質を問う問題が増えます。そして国語（現代文）と数学（Ⅰ・A）では、記述式問題が出題されます。たとえば、国語（現代文）では、ひとつの大問の中にまとめて40字程度2問、120字程度1問の記述式問題が含まれる予定です。数学では、数Ⅰの範囲の中に数式の記述、短文による記述の問題が3問程度含まれる見込みです。

③ 試験時間や得点率、大学に送られるデータが変わる！

共通テストの試験時間や得点率には変更点があります（右図参照）。

また、各大学に送付する成績データは、センター試験の場合は「得点」のみでしたが、共通テストでは、それに加えて「得点の分析結果」「国語の記述式問題に対する5段階評価」「英語の民間試験の結果」などが大学側に送付されます。

資料C　形式・試験時間・得点率の変更点

名称	新テスト 大学入学共通テスト	旧テスト センター試験
試験時間	国語80分 → 100分 数学Ⅰ、Ⅰ・A60分 → 70分 ※そのほかはセンター試験と同じ	国語・英語筆記は80分 そのほかは60分
平均得点率	50%を想定	60%を想定
各大学への送付データ	・マーク式部分の得点と分析結果 ・国語記述：記述式総合の5段階評価 ・英語民間試験：スコア・CEFRの段階評価・級などの合否	全教科・科目の得点

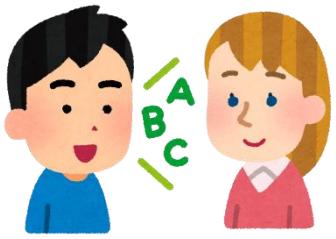
④ 協働や問題解決の場面が問題の題材に！

共通テストのプレテストでは、協働（協力しながら課題に向かう学び）を意識した問題も出題されます。平成30年度に行われたプレテストの地理 B では、「文化祭の展示のために生活文化の多様性をみんなで考える」という設定の問題が出題されています。また、現代世の中で起きていることを題材とする問題が出題される傾向もあります。

⑤ 複数の資料・図表を読み解く問題が増える！

共通テストに先立って実施されたプレテストでは、どの教科・科目でも、複数の資料や図表を正確に読み解いて解答を導く問題が目立ちました。普段の受験勉強では、資料・図表に積極的に触れ、それらから情報を正確に読み取る練習が必要になります。

●英語成績提供システムについて



今回の入試改革で、最も重大な変更点といえるのがこの「英語成績提供システム」の導入です。

このシステムは前述の通り、「**受験生が大学入学共通テストとは別に民間の試験を受験し**、その受験結果が大学入試センターに提供される」というものです。

大学入試に使用することができる民間試験は、おおまかに書くと以下の5団体の実施するものになります。

・ケンブリッジ英語検定機構　・IDP IELTS　Australia　・日本英語検定協会
・ベネッセコーポレーション　・CIEE 国際教育交換協議会（TOEFL テスト日本事務局）

※当初 TOEIC テストも参加予定でしたが、今年の7月に撤退を表明しました。

※日本英語検定協会（英検）の実施する各種テストのうち「1day S-CBT」のみ、現在既に予約受付開始中です。（第一回目の検定の予約締切は10月7日）予約料3000円がかかりますが、確実に第一回目の検定を受験したい場合は、自己判断で予約を行って下さい。詳しくは英検の HP をご覧ください。

受験生は高3（受験学年）の4月～受験日までの間に、希望する試験の種類とレベルを**自分で選択して受験する**必要があります。受験結果は、民間試験業者から大学入試センターを経由して、受験する大学に伝わります。

テストの結果がどのように使われるかは、受験する大学の方針によって異なります。

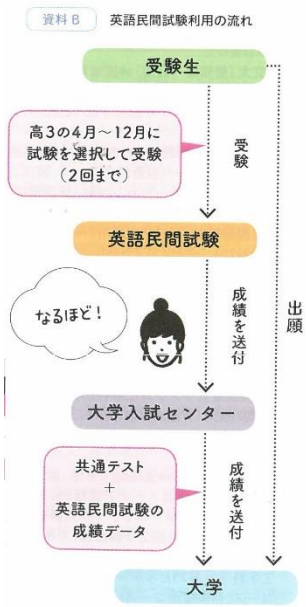
大きく分けて以下のような使われ方をする予定です。

① 出願資格　→大学が指定する試験のスコアを取得した者のみが出願することができるようになる
② 加点　→大学が指定するスコア取得者に対して、入試の英語試験の得点や総合判定に加点が行われる。
③ 得点換算　→大学が指定するスコアを取得した者は、民間試験で得点した分が、大学入学共通テストの英語試験の得点に加算される。
入試当日に英語試験を受験して、よい方の得点で合否判定される場合もある。
④ 合否判定・判定優遇　→大学が指定するスコアの取得者に対して、合否判定の際に優遇が行われる。
⑤ 利用しない　→民間試験を利用せず、従来通りの試験方法を用いる。

右図の通り、民間試験を受ける時期は4月～12月までなので、**実質的に大学入試の時期が早まります。**

英語成績提供システムは、今後 AO 入試や推薦入試にも活用される予定のため、推薦入試希望者も他人ごとではありません。

大学受験希望者は今まで以上に、**早い段階で志望校の情報集めを行い、出願要件や試験の内容を熟読し、理解して動くことが必要になります。**
現在の高校2年生の皆さんは特に心しておいてください。



●入試改革の問題点

今回の大学改革は英語民間試験の予約期間も含めると、既に始動し始めているにも関わらず、問題点が多数あり、教育現場では改革の延期や見直しを求める意見が上がっているのも事実です。

・**そもそもの制度移行への準備期間があまりにも短い。**
既に予約申し込みをはじめている企業（英検）もあるのに、**いまだに試験の詳しい日程や場所などの詳細が決まっていない状態。**
・改革後の内容が複雑な割に**教育現場への説明が不十分である。**
・実質的に大学入試が早まるため、学校行事や部活動などの**高校生活が破壊される恐れがある。**
・記述式問題が増えることで、**採点にかかる業務量が膨大になる。**かつ、**採点基準があいまいになる。**
受験者による自己採点は正確性が疑われ、ほぼ不可能になるといえる。
・**英語外部試験の対策に時間を割かれ、**他教科の勉強がおろそかになる恐れがある。
・民間試験の導入により、**受験生の経済的負担が増える。**複数回テストを受けられる裕福な受験生の方がどうしても有利になり、**家庭の経済格差により受験機会に不公平さが生じる。**
・**特定の受験産業が利益を得る仕組みができる。**
・上記の理由から、現場の賛成者が少ないにも関わらず**強行されている。**（昨年の1月から3月にかけて東北大学が高校を対象に行った調査では、英語の民間試験を導入することに関して「賛成」と答えた高校の割合が8%に過ぎなかった。） …など

このように深刻な問題点が大量に残る状態で進められている大学入試改革ですが、実施する可能性がある以上は、やはりどうしても試験に向けた対処は必要になります。ただし、今年の7月になって TOEIC が撤退したことなども踏まえると、今後も詳細に関しては適宜変更が加えられていく可能性があるため、注意して情報を追っていく必要があります。

●共通テストの変更点に備えるために…

大学入試改革の問題を差し引いても、世界的な情勢を見るに、今後の学校教育やそれに伴う入試の内容が「思考力・判断力・表現力」を重視したものに変わっていくこと自体は間違いないと言えます。

次年度以降の具体的な入試対策としては、

・記述式問題・作文・対話型試験などに備えて表現力をみがく。
・資料や図表を読み解く力を養う。
・（できれば）英語の民間試験の出題形式に慣れておく。

…といったことをしておくとよいです。

基礎学力がしっかりついていれば、多少の入試の変化があっても十分に対処することができます。
「勉強する習慣」「日々の積み重ね」が大事なことは、今後も変わりません。

再掲になりますが、生徒対象の大学入試共通テストの説明会を以下の通り行いますので、対象の人は予定を空けておいて下さい。

◇「2年次　大学入試共通テスト　説明会」

11月8日（金）16:25～

※大学進学を“少しでも考えている”現2年生の生徒は、必ず参加できるように、予定を空けておいて下さい。
（英語民間試験のための共通 ID 申請書類の記入もここで行います。就職または専門学校進学“のみ”検討している人は、参加しなくてもかまいません。また、他学年の人も希望があれば参加可能です。）

---------- き り と り ----------

保護者の方へ

今回の大学入試改革について質問・ご相談などありましたら、以下の空欄にご記入の上、
各クラス担任までご提出ください（担任→進路指導部）
後日、個別に返答させて頂きます。（意見多数の場合は、次号の進路だよりにて返答させて頂きます）。